



横濱洋行



114
A 3608



一書 來輸出入其權衡ヲ失フヨリ 橫濱ニ於

テ内外ノ間ニ洋銀ノ有高甚々減少セリ

本港洋銀ノ有高ヲ百萬ト云フ者アリ二三

百萬ト云フ者アリ 何レモ臆測ノ考ニテ確證

ヲ得ルト甚々難シ 或ハ信ス可キニ似タシ 説モ

アレハ次第ニ之ヲ叩テ實證ヲ求レハ邊ニ

又信ス可ウサルノ 臆説タルヲ免カレズ 但

輸出入僅々ノ 盛衰ヲ以テ忽々洋銀ノ相

場ニ差ヲ生スルヲ 見レバ一般ニ其數ノ少ナ

大正十一年四月
大隈侯爵郵寄贈

金花堂

キヲ知ル可シ

一輸出ノ高増シテ輸入ノ高減スルハ自ガラ
洋銀ノ價ハ下落スレバ輸出ノ盛ナルガ為ニ
落スル勢力ハ弱クシテ輸入ノ盛ナルガ為ニ騰貴
スル勢力ハ強シ

但シ金貨ノ相場其他種々ノ関係アレバ是ニ
云フ洋銀相場ノ高値ハ是等ノ関係ヲ外ニ
シテ論シタルモノナリ

一右相場ノ高値ヨリシテ日本ノ通貨ヲ所有スル
内國人ハ常ニ損ヲ蒙リ洋銀ヲ所有スル外國

人ニハ常ニ得アリ内國人ガ洋銀ヲ外國人ニ拂フ
可キハ當テ其相場大ニ騰貴スレバ外國ノ銀
行又ハ洋銀ヲ貯藏スル商家ニ日本ノ通貨ヲ
預ケテ洋銀ヲ借入レ下落ノ時ヲ俟テ返却スル
ヲ常トス然ルニ内國人ノ洋銀ヲ貯藏スル高常
ニ少量ナルヲ以テ少シク輸入ノ増加スルヲアレバ
忽々洋銀拂底トナリ其借用ノ利子非常ニ
騰貴シテ尚貸ス者ナキニ至ル此場合ニ於テ
止ムヲ得ス通貨ノ別ナシ
洋銀ヲ借入レ法外ナル利足ヲ拂フナリ(所

謂高利ナルモノニテ其極度ニ至テハ百弗三日
間ノ借用ニ弗ウ拂フアリ或ル支那人如
キハ專テ洋銀貸附ヲ以テ營業スル者アリ
一洋銀ノ價ニ五分ヲ増スギハ輸出品ノ價ハ其割
合ニ從テ五分ヲ減シ唯外人ノタメニ五分ノ利
益タルノミ之ニ及シテ輸入品ハ其割合ニ從テ價ヲ
減スルコトナク唯内国人ノ損セタル可キノミ又外
國ニ為替ニ付テモ其利益ハ洋銀ヲ所持スル外高
ノ手ニ落ルヲ常トス

金花堂

一洋銀騰貴スレバ居留地バンクノ豫備金ニモ非常ノ
利益ヲ與ヘ帝ニバンクノミナラス内國ニ産入シ
タル洋人其他都テ日本ニ在留スル外人ハ其益
ヲ蒙ラザル者ナシ今年ノ洋銀相場ヲ平均シテ
去年ヨリ高キ一五分ナレバ取モ直サズ雇ノ
外人へハ五分ノ給料ヲ増シ在留ノ外人へハ
一年ノ費額ニ五分ノ保護ヲ與ルニ異ラス
一又洋銀騰貴スレバ内國ノ通貨ヲ貸シテ外
人ヨリ洋銀ヲ借用シ又ハ引取品ノ代ニ通貨
ニ通貨ヲ預ケ置クヲ以テ外人ハ其所有ノ
洋銀ヲ貸シテ利息ヲ取り尚其上ニモ抵當ニ

預リタル日本ノ通貨ヲ融通シテ二重ノ利ヲ
得ル者アリ

一右ノ如ク洋銀ノ騰貴ハ常ニ外国人ノ利益ニ
テ以テ高賣ノ景況ニ由リ一時相場ノ騰
貴スルコトアレバ永ク其騰貴ヲ持^ホセシメント
シ術策ヲ用ヒテ下落ヲ防クコト多シ

一前條々ノ損害ヲ防カントスルニハ結局開港
場ニ洋銀ノ通用ヲ停メテ我貿易銀ヲ用ルニ
非サレバ叶ヒ難キコトナリ此場合ニ至レバ居
留地ノバンクノモ次第ニ利益ヲ減シテ横濱ニ

營業スルヲ好マズ隨テ内國ノ銀行ハ繁榮シ
テ事務ノ技倆モ活潑ニ進ミ始テ銀行ノ体
面ヲ具フルニ至ル可シト虫氏其事ノ甚ヤカルミテ
ハ免ニモ角ニモ救急ノ策ヲ設ケテ洋銀ノ騰
貴ヲ防カサル可ラス其策左ノ如シ

一横濱ニ一商人ヲ撰テ之ニ通貨三^十萬圓ヨリ
五十萬圓ノ高ヲ預ケ漸次ニ洋銀ヲ買入レテ之
ヲ貯置キ輸出入ノ為ニ一時洋銀ノ拂底^ナル
通貨又ハ公債證書ヲ擔當ニ取り至當ノ利
息ヲ以テ貸附ル事

一未ダ試ミサルニテ三十萬枚五十萬枚又或
ハ二十萬ニテモ足ル可キ歟其高定々推シテ此
結局金港ノ洋銀ヲ三百萬ト積ルモ五ノ
カヲ以テ巧ニ高値ノ調子ヲ取ラバ必ク暗ニ全
局ヲ支配スルヲ得ベシ

一此三五十萬ヲ預ケ渡スニ別ニ松當ヲ要セタ時々
本省ヨリ検査ノ吏ヲ遣リ金箱ヲ改ルノ洋
銀アラザレバ通貨又ハ公債證書アリ通貨眞證
書アラザレバ洋銀アリ其現在ノ金額ヲ見ルノ
勞ニ過キズ

一此金ヲ預カル者ハ大蔵省御用達ノ名ヲ附
共シテ給料ハ毎年利息ノ幾分ヲ共ニ可シ

一此御用達ハ洋銀ノ賣買ヲ禁ス唯十分ニ通
貨ト公債證書ヲ抵當ニシテ貸付ルノ若シ洋
銀ヲ買切リ又ハ賣切リニシテ都合宜シト認メ
タラバ必ス本省ニ伺^後取計^可フ可シ

金松堂